

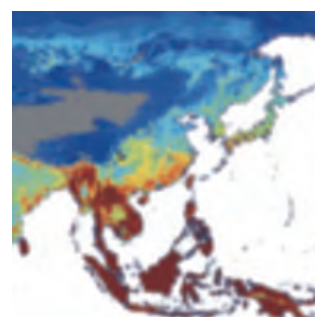
# 「生態系計測・モニタリングの最前線」

日時：平成 27 年 10 月 23 日（金）13:00 ～ 17:30

会場：日本学術会議講堂（港区六本木，乃木坂駅すぐ）

## 開催趣旨

農地や森林などの陸域生態系は大気環境の影響を受けるとともに、様々なエネルギー・物質交換を通じて大気環境を改変する機能（環境機能）を有している。気候や農業生産などの将来予測を行うためには、陸域生態系と大気環境との相互作用を計測し、モデル化することが必要である。近年の気候変動や、特に発展途上国で顕著な人為的な環境攪乱は、陸域生態系の脆弱性を高め、二酸化炭素の固定などの環境機能を悪化させることが懸念されているため、環境攪乱に対する生態系の応答を広域で高頻度にモニタリングするための衛星リモートセンシングが強く望まれている。この分野ではわが国の技術（PALSAR-2, GOSAT）が先行しており、国際的な期待が高まってきている。また、生態系の環境応答を野外環境で計測するための技術も進化してきており、生態系モデルの素過程の精緻化に大きく貢献している。本シンポジウムでは、陸域生態系のプロセス研究における計測手法・技術や広域でのモニタリングの「最前線」について紹介していただくとともに、関連した研究分野における研究の方向性などについて議論する。



## プログラム

- 13:00 開会挨拶 真木太一（日本学術会議連携会員，九州大学 名誉教授）
- 13:05 趣旨説明 平野高司（日本学術会議連携会員，北海道大学 教授）
- 講演（13:15 ～ 14:45） 司会 青野光子（日本学術会議連携会員，国立環境研究所 主任研究員）
- 13:15 水田生態系の環境変動応答の解明を可能とする開放系大気 CO<sub>2</sub> 増加（FACE）実験  
林 健太郎（農業環境技術研究所 主任研究員）
- 13:45 農地における微量気体のフラックス計測：現状と展望  
宮田 明（農業環境技術研究所 領域長）
- 14:15 二酸化炭素安定同位体を用いた森林における炭素循環研究  
高梨 聡（森林総合研究所 主任研究員）
- 講演（15:00 ～ 16:30） 司会 青木正敏（日本学術会議連携会員，明治大学 非常勤講師）
- 15:00 ALOS-2 PALSAR-2 による森林分類・変化・バイオマスの観測  
本岡 毅（宇宙航空研究開発機構 開発員）
- 15:30 GOSAT データの陸域生態系研究への利用－メタン放出量の時空間変動解析  
齊藤 誠（国立環境研究所 研究員）
- 16:00 生態系リモートセンシング－細胞から植生へ，2 次元から 3 次元へ  
大政謙次（日本学術会議第二部会員，東京大学 教授）
- 16:40 総合討論 進行 平野高司（前掲）
- 17:20 閉会挨拶 橋本 康（日本学術会議連携会員，愛媛大学 名誉教授）

主催：日本学術会議 農学委員会 農業生産環境工学分科会，環境学委員会 環境科学分科会

後援：日本農業気象学会，日本生物環境工学会，生態工学会，日本農業工学会，JapanFlux，  
森林総合研究所，国立環境研究所，環境省（予定）

参加費：無料（どなたでも参加できます）

連絡先：北海道大学・平野（hirano@env.agr.hokudai.ac.jp）